

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	中学年に至るまでの低学年代からの確実な知識・技能の定着を図るために、ドリルパークやスタディサブリなどのデジタルコンテンツを活用した授業改善をさらに進めていく。また、個に応じた指導の充実を図り、学力の二極化に対応できるようにしていく。
思考・判断・表現	デジタルコンテンツを生かした授業を効果的に展開し、学び合いを通して思考力・判断力を育成する。また、高学年においては、教科専科制を有効に活用し、教師の指導力を育成するとともに、児童の多様な考えを生かした指導方法の工夫改善に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
主体的に学習に取り組む態度	個に応じた指導の充実と多様な考えを生かした授業を展開することで、児童一人ひとりがより主体的に学習に取り組むことができる学習活動を展開させる。ICTの効果的な活用について、学校課題研究として継続的に取り組んでいく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」にかかわる領域において、全ての学年が市の平均正答率を上回り、また、R4年度の自校の結果よりも無解答率を減少させる。	⇒ 漢字や基本的な計算等について、ドリルパークなどのデジタルコンテンツと既存のドリルなどを活用し、反復・習熟に取り組む。学習履歴などを活用して個に応じた指導や支援を充実させる。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」の領域において、4年生以上の「データの活用」に関する平均正答率が市の平均正答率を上回り、R4年度の自校の結果よりも無解答率を減少させる。	⇒ オクリンクやムーブノートなどを利用して、児童が主体的に自己の思考の流れを確認したり、既習事項を生かして発展的に学習することができる時間や場を効果的に設定する。協働編集機能を生かした学習を展開することで、多様な考えの共有を図ることができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」や「授業で新しい問題に出あったとき、それを解いてみたいと思いますか。」の質問の肯定的な回答割合が、R4年度を上回る。	⇒ 児童にとって必要感のある課題設定を行い、主体的な課題解決型学習を充実させる。授業後のまとめや振り返りの時間設定を徹底し、自己のめあてや次時の取組に見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	基礎的な知識・技能に関する学習では、全ての学年で概ねよく定着が図られている。各学年の国語の「我が国の言語文化に関する事項」に関する領域での定着は、3・4年生でやや課題が見られる。	B
思考・判断・表現	知識・技能を生かした課題解決は、学年が上がるにつれて上昇する傾向にあるとともに、極端な二極化を示す傾向にある。4年生における「データの活用」に関する領域では、継続的に課題としてとらえ、指導方法の工夫改善を行う必要がある。	B
主体的に学習に取り組む態度	本校児童の学習意欲は高く、多くの児童が学習に主体的に取り組む姿が見られる。日頃の授業においては、多様な考えを尊重し、相互に関わり合いながら、認め合い、自己の目標に向かってあきらめずに取り組もうとする児童が多く、学習状況調査においても無解答の割合が低い。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2pt、算数-3ptであった。全国平均との差には大きな変動はなく、R5年度では、国語、算数ともに、全国平均を下回る問題は見られなかった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+1pt、算数-3ptであった。全国平均との差には大きな変動はなく、国語では、思考力、判断力、表現力等を問う全ての問題において、全国平均を3pt上回る結果であった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は95%であり、全国平均を17pt上回っている。より一層、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語・算数ともにさいたま市の平均を上回った。国語では、全ての教科領域等で市の平均正答率を上回っているものの、「我が国の言語文化に関する事項」の調査結果が最も低い正答率であった。算数では、「図形」に関する領域の平均正答率の市の平均正答率を下回り、課題である。	小4	国語・算数ともにさいたま市の平均を上回った。国語では、「我が国の言語文化に関する事項」や「書くこと」「読むこと」に関する領域で、市の平均正答率を下回っている。算数では、「データの活用」に関する領域が市の平均正答率を下回り課題である。
小5	国語・算数は市の平均正答率を上回り、社会・理科は市の平均正答率を下回った。特に社会の全ての領域と理科の「地球」を柱とする領域以外の領域に関する問題で、市の平均正答率を下回った。	小6	全ての教科で市の平均正答率を上回った。国語の「書くこと」「読むこと」に関する領域と、社会の「地理的環境と人々の生活」に関する領域では、市の平均正答率を下回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、敬語の使い方の考え方に課題がみられた。日常生活の場面で丁寧な言葉づかいをする機会を多く設定する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、目的や意図に応じた自分の考えのまとめ方に課題がみられた。自分の思いや考えと、相手の考えを比較しながら聞くなどの学習過程をより多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ ICTの活用を進め、学習ログを振り返りや共有することに生かせるように、有効なデータの蓄積と活用に努める。